

災害時における障害者の困りごと調査・理解促進事業  
報 告 書

社会福祉法人 日本身体障害者団体連合会

# 災害時における障害者の困りごと調査・理解促進事業

## 1. 目的

障害理解へとつながる合理的配慮の提供に関する理解と意識啓発を目的に、日常の暮らしを含め、災害時における障害当事者の視点や経験を通して見えてくるさまざまな課題や好事例をより分かりやすい形で社会に発信する。

## 2. 事業の内容

### (1) 事例の収集と分析

①調査方針：大規模災害時を経験した障害者の困りごと及び大規模災害の経験がない障害者の災害への意識について調査し、課題を確認するとともに、今後の防災・減災に向け、提言を行う。

②調査方法：アンケート用紙による調査  
郵便またはメールによる配布・回収

③調査期間：平成29年10月から12月までの3ヶ月間

④調査対象：全国の身体障害者相談員等

⑤調査結果：別紙のとおり。

調査数 2750件

回答数1242件（回答率45.16%）

※肢体不自由、視覚障害、聴覚障害、言語障害、盲ろう、内部障害、知的障害、精神障害、発達障害、難病等

### (2) フォーラムの実施

①タイトル「災害、その時 私たちは  
～災害から学ぶ 私たちの伝えたいこと、伝えたい思い～」

②開催日時：平成30年3月3日（土） 10時～16時

③開催場所：TIAT SKY HALL（羽田国際空港ターミナルビル内4F）

④参加者：ワークショップ 47人  
シンポジウム 98人

⑤プログラム：第1部 ワークショップ（仮想避難所体験プログラム）  
第2部 アンケート調査報告、シンポジウム

## 参考資料

- ① 災害時の困りごと等に関するアンケート調査票
- ② 災害時の困りごと等に関するアンケート集計結果
- ③ 日身連フォーラム関係資料

## 災害時の困りごと等に関するアンケート調査

記入日:平成 29 年 月 日

実施:社会福祉法人日本身体障害者団体連合会

『災害時の困りごと等に関するアンケート調査』は、大きな災害の経験を通し、障害のある方の困りごとや好事例を調査するとともに、災害経験のない障害のある方の災害に対する意識等を調査します。本アンケート調査によって、地域における災害対策の向上が図れるものと期待しています。アンケートへのご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

問1 回答いただく障害当事者ご本人に関する設問です。該当箇所に○印または必要事項を記載してください。

1) 記入者 ①障害当事者の方 ②代理の方(障害当事者の回答を代理で記入)

2) 性別 ①男性 ②女性

3) 年代 ①～20代(29歳以下) ②30代 ③40代 ④50代 ⑤60代  
⑥70代 ⑦80代～

4) 障害種別(重複回答可)

- ①肢体不自由 ②肢体不自由(車いす) ③視覚障害(全盲・弱視他)  
④聴覚障害(イ.ろう口.難聴ハ.中途失聴) ⑤言語障害 ⑥盲ろう  
⑦内部障害 ⑧知的障害 ⑨精神障害 ⑩発達障害 ⑪難病  
⑫その他( )

5) お住まい \_\_\_\_\_ 都・道・府・県 \_\_\_\_\_ 郡・市・区・町・村

6) 大きな災害(地震、水害等)を経験したことはありますか。

①ある → 問2へ ②ない → 問15へ



- ① 阪神淡路大震災 ② 新潟県中越地震  
③ 東日本大震災 ④ 熊本地震  
⑤ その他(災害の名称または場所 \_\_\_\_\_ 発生した年 \_\_\_\_\_)

■大きな災害を経験したことがある方は、以下の設問(2~14)にご回答ください。

問2 災害発生の時、どこにいましたか。

- ①自宅 ②知人宅 ③職場 ④商業施設 ⑤学校 ⑥福祉施設  
⑦その他( )

問3 災害発生の時、何に困りましたか、また、何が不安でしたか。

( )

問4 災害発生の時、どこかに避難しましたか。

①避難した

②避難しなかった

●問4①「避難した」と回答した方への質問です。災害発生時に避難する時、どなたかに助けてもらいましたか。

- ①同居家族 ②行政 ③地域(近所)の人 ④一人で避難した ⑤その他( )

▶●問4②「避難しなかった」と回答した方への質問です。避難しなかったのはなぜですか。

- ①避難する必要がなかった ②避難したかったができなかった

その理由: \_\_\_\_\_

問5 あなたが行くべき指定避難所は知っていましたか。

- ①知っていた ②知らなかった

問6 最初に避難生活をされた場所はどこですか。

① 指定避難所のうち → 小中学校 福祉施設 公民館 その他( )

② 指定避難所以外のうち → 自宅 親戚知人宅 駐車場 公園 テント  
車中 その他( )

↓  
●問6②「指定避難所以外」と回答した方への質問です。指定避難所に行かなかった、または、行けなかった理由は何ですか。

[ ]

問7 避難した場所で一番困ったことは何ですか。(自宅避難等含む)

避難した場所: \_\_\_\_\_ 困ったこと: \_\_\_\_\_

避難した場所: \_\_\_\_\_ 困ったこと: \_\_\_\_\_

問8 仮設住宅やみなし仮設に移りましたか。また、その生活の中で困ったことがありましたか。

①はい                      ②いいえ

↓  
●問8①「はい」と回答した方への質問です。その生活の中で困ったことは何ですか。

[ ]

問9 復興公営住宅に移りましたか。また、その生活の中で困ったことがありましたか。

①はい                      ②いいえ

↓  
●問9①「はい」と回答した方への質問です。その生活の中で困ったことは何ですか。

[ ]

問 10 災害発生時や避難生活の大変な中で、良かった、あるいは安心したと感じられた支援がありましたらお書きください。

[ ]

問 11 災害時において支援を必要とする方の名簿を行政が作成していますが、その制度を知っていましたか。(現在、『避難行動要支援者名簿』と呼ばれています)

- ①知っていた                      ②知らなかった



●問 11①「知っていた」と回答した方への質問です。その名簿に登録していましたか。

- ①登録していた                      ②登録してなかった



●問 11①「登録していた」と回答した方への質問です。登録したことで、どのような支援が受けられましたか。

[ ]

→ ●問 11②「登録してなかった」と回答した方への質問です。登録しなかったのはなぜですか。

[ ]

問 12 地元の防災訓練に参加したことがありますか。

- ①被災以前から参加                      ②被災後から参加                      ③参加したことがない



●問 12①・②「参加したことがある」と回答した方への質問です。参加して良かったことや困ったこと等は何ですか。

[ ]











## 「災害時の困りごと等に関するアンケート調査」(平成30年3月1日版)

大規模災害時における障害のある方の困りごとや好事例に関する調査及び災害経験のない障害のある方の災害防災に関する調査を実施。

### 調査概要

調査主体 社会福祉法人日本身体障害者団体連合会

調査期間 平成29年10月から12月までの3ヶ月間

調査対象 日身連加盟団体身体障害者相談員等

調査方法 郵送またはメールによる調査票配布・回収

調査結果 調査数 2750件

回答数 1242件 (回答率 45.16%)

内訳 肢体不自由、視覚障害、聴覚障害、言語障害、盲ろう、

内部障害、知的障害、精神障害、発達障害、難病他

# 災害時の困りごと等に関するアンケート調査

## 集計の状況

調査数：2750 件

回答数：1242 件（回答率：45.16%）

## 問1 回答者に関する質問

### 1) 記入者

災害経験の有無	あり	なし	合計
障害当事者の方	469	470	939
代理の方	67	68	135
無記入	79	89	168
合計	615	627	1242

### 2) 性別

災害経験の有無	あり	なし	合計
男性	390	360	750
女性	221	257	478
無記入	4	10	14
合計	615	627	1242

### 3) 年代

災害経験の有無	あり	なし	合計
～20代	3	9	12
30代	11	10	21
40代	28	13	41
50代	40	34	74
60代	157	149	306
70代	258	288	546
80代～	113	114	227
無記入	5	10	15
合計	615	627	1242

### 4) 障害種別（重複回答有）

災害経験の有無	あり	なし	合計
肢体不自由 (うち車いす利用者)	340 (32)	399 (34)	739 (66)
視覚障害	76	43	119
聴覚障害	56	59	115
言語障害	33	5	38
盲ろう	2	0	2
内部障害	85	97	182
知的障害	9	28	37
精神障害	9	5	14
発達障害	2	6	8
難病	10	6	16
その他	8	9	17
合計	630	657	1287

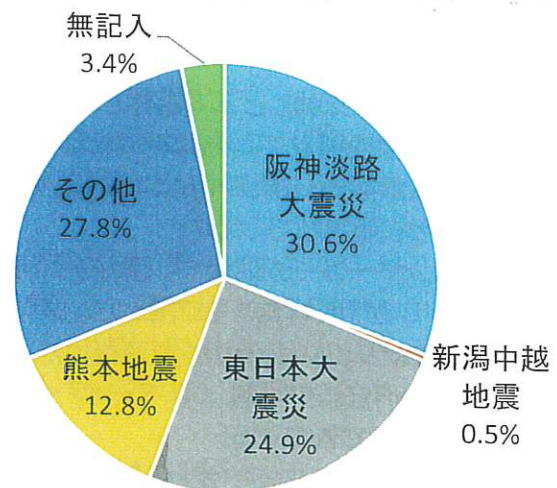
### 6) 大きな災害経験の有無

「災害経験あり」のデータ個数	615
「災害経験なし」のデータ個数	627
合計	1242

## 「災害経験あり」の回答（問2～問14）

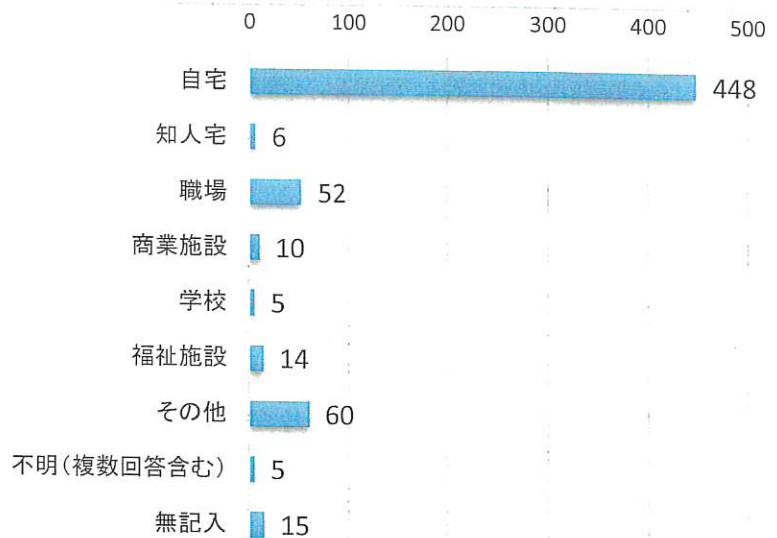
### 災害の内容

阪神淡路大震災	188
新潟中越地震	3
東日本大震災	153
熊本地震	79
その他	171
無記入	21
合計	615



### ◆問2 災害発生の時、どこにいましたか。

自宅	448
知人宅	6
職場	52
商業施設	10
学校	5
福祉施設	14
その他	60
不明(複数回答含む)	5
無記入	15
合計	615



### ◆問3 災害発生の時、何に困りましたか。また、何が不安でしたか。

#### ○水、電気、ガス、電話、食料、トイレ、風呂、寝る場所、交通、情報

- 事例
- \* 子供が3歳だったため買い物や水をもらうための列には入れなかった。又、食料が足りなかった
  - \* 水運びに階段の昇り降りや移動の手段
  - \* 家から外へ出られない。怖かった。手話通訳者がいず、悩んでいた
  - \* 耳が聞こえないから、テレビから情報がなく不安
  - \* かかりつけの病院の再開等、状況では服用薬の残りが心配だった(結果的には大丈夫だったが)
  - \* 定期通院日が震災発生後すぐだった。重症者優先となり服用薬が受け取れなかった(お薬手帳で対応してもらえた)

- \* 情報入手(携帯電池切れで充電出来ず)、電気、水道の断線、断水、飲食物の配給
- \* 何もわからず、他との連絡がつかず、一人で心細かった

## ○避難や避難所

- 事例
- \* 見えないため、どこに避難したらいいかわからなかった
  - \* 日頃歩き慣れているはずの道に段差があったりした
  - \* 「集合場所に集まれ」という放送が耳が聞こえないためわからなかった。職場の仲間が知らせて誘導してくれた
  - \* エレベーターが動かず、階段を降ろしてもらった。一人で居たとしたら大変
  - \* トイレが和式ばかりで困った。家に帰れるか不安だった。トイレの水が流せないで、水をタンクに入れるのが大変だった
  - \* 肢体不自由の為、エレベーターが止まり外に避難する時と家に戻る時に困り、家の者が帰るまで外にいた
  - \* 着のみ着のままで避難だったので、非常に寒く、いつ待機しなくてはいけないのか、不安だった
  - \* 着の身着のままで庭に飛び出したので人工肛門に必要な装具を持ち出せなかった時、不安だった
  - \* 体が不自由な為、どの様にして避難するかがわからなかった
  - \* 道路が冠水し、途中(自宅への帰路)通行止めになったが、避難所が混雑しており、トイレや体を休める所に少し不自由した
  - \* 避難受け入れ先がない(A.L.S のため)
  - \* 避難路が水没してしまい、通行不能となってしまったこと

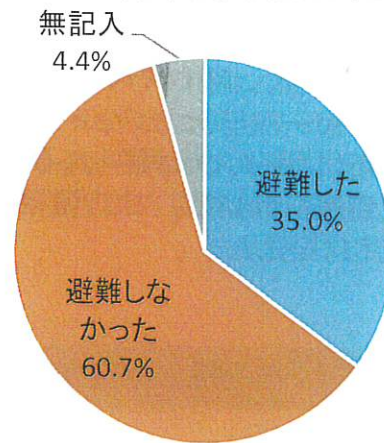
## ○被災による精神的な不安

- 事例
- \* 自宅が団地の5階のため、揺れが大きく余震のたびにパニックになった
  - \* 周りが健常者だけだったので会話の内容が全く分からなかった。これからどうしたらいいか全く分からなくて不安だった
  - \* 自宅が築 65 年もたっていたので、サッシがはずれ家が 60 度位傾き、また余震がきたら家がつぶれると思いながら、今晚どうしようと不安ながら避難した
  - \* 怖くてなにも出来なかった。動けなかった
  - \* 建物が壊れるのではと心配した。動けなかった
  - \* 本震に続いて余震がひどく部屋に入る事は出来ない。三晩とも車内に寝起きした
  - \* 突然の地震で家財道具、生活インフラ(トイレ・風呂)等も全てが破損され、市の公共施設に避難し、夜は車中泊の生活でした
  - \* 電灯が消えた後で、外を見ても一点の明かりも見えなかった時、恐怖にかられた。ベッドで暗闇の中身動きとれず震えていた。玄関が出入り出来ずに近所の人達に窓から入ってもらい移動した
  - \* 経験のない大雨で、すごい音で、止むのだろうか、家の 2 階に居たけれど、いつまでこのままなんだろうと思っていた。家族と一緒に居たけど怖いと感じた



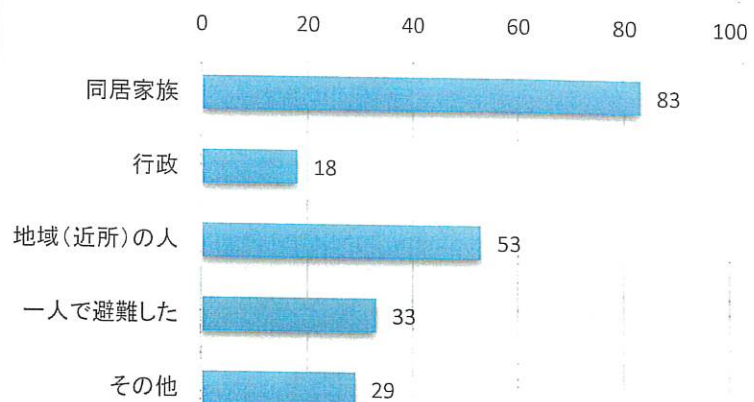
◆問4 災害発生の時、どこかに避難しましたか。

避難した ①	215
避難しなかった ②	373
無記入	27
合計	615



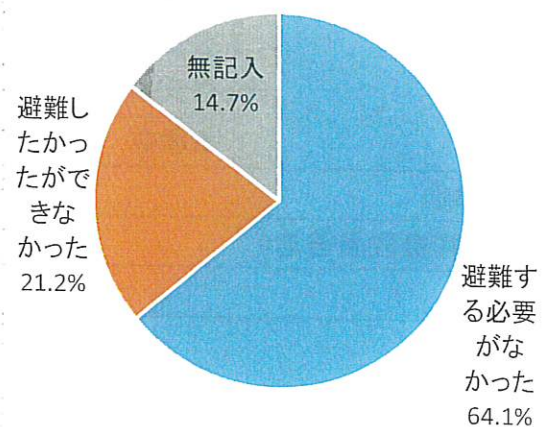
① 避難時、どなたかに助けられましたか。(複数回答)

同居家族	83
行政	18
地域(近所)の人	53
一人で避難した	33
その他	29
合計	216



② 避難しなかったのはなぜですか。

避難する必要がなかった	239
避難したかったができなかった※	79
無記入	55
合計	373



※ 避難したかったができなかった主な理由

○障害のため

- 事例 \* 障害者の息子が家にいたので集団に入る事が難しかった  
\* 夫婦とも障害がありいけなかった

○支援者不在

- 事例 \* 誘導してくれる人がいなかった  
\* 手助けがなく置き去りにされた



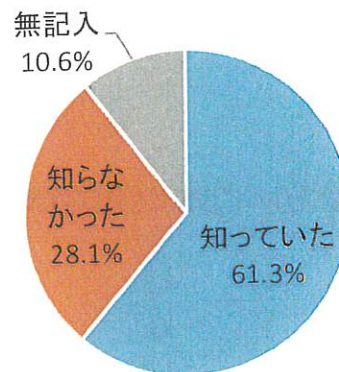
- \* 一人だったから
- \* エレベーターが使用禁止

### ○避難所の環境

- 事例
- \* 避難所が遠く、歩いて行くことができなかった
  - \* 避難所が一杯だったのとトイレの問題
  - \* 避難所に車イスでは居られる状態ではなかった
  - \* 指定避難所は被災、次の避難所が曖昧で明示してなかった、模索したが分からず、自宅に引返した

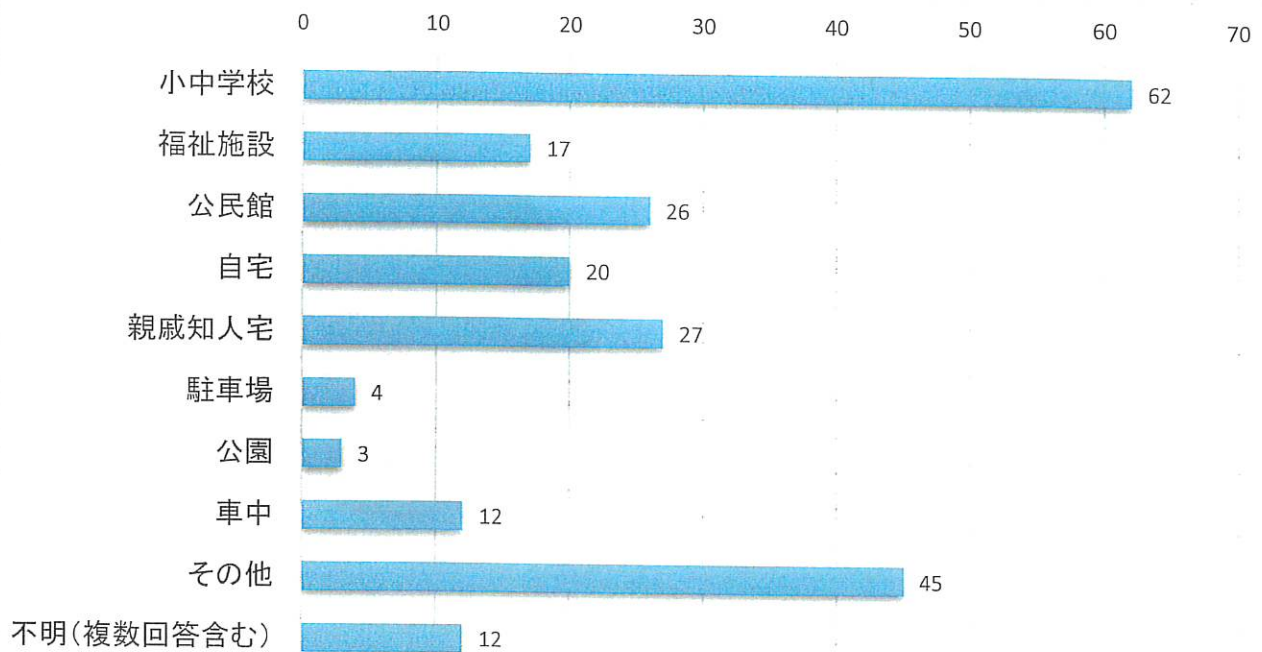
### ◆問5 あなたが行くべき指定避難所は知っていましたか。

知っていた	377
知らなかった	173
無記入	65
合計	615



### ◆問6 最初に避難生活をされた場所はどこですか。(問4「避難した」と回答・複数回答)

指定避難所	小中学校	62
	福祉施設	17
	公民館	26
指定避難所以外 ※	自宅	20
	親戚知人宅	27
	駐車場	4
	公園	3
	テント	0
	車中	12
その他		45
不明(複数回答含む)		12
合計		228



※ 指定避難所以外と回答した方で、指定避難所に行かなかった、または行けなかった理由は何ですか。

主な理由

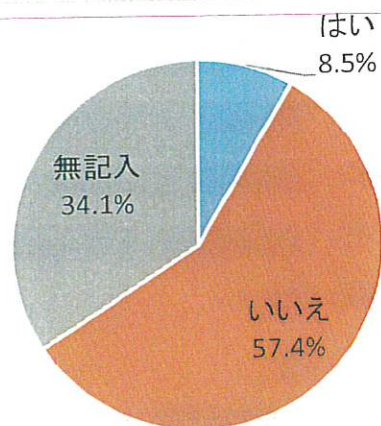
- 自宅、親戚宅の方が安心(40件)
- 避難所の環境(トイレ、ベッド等)が不安(14件)
- 一人では行けないため(12件)
- 避難所がいっぱいで居場所がない(11件)
- 自宅から遠いため(9件)
- 災害当時は制度がなかった(8件)
- 知らなかった(7件)
- 迷惑をかけてしまう(3件)
- 開所されていなかった(3件)

◆問7 避難した場所で一番困ったことは何ですか。

- 自宅／トイレ・食事・電気・風呂、 ガソリン(東日本大震災)
- 学校／トイレ・食事・情報提供・居場所、 寒さ(東日本大震災)
- 公民館、市民センター／トイレ・居場所、 寒さ(東日本大震災)
- 車中／トイレ、水、食料
- 親戚、知人宅／トイレ、遠慮

◆問8 仮設住宅やみなし仮設に移りましたか。

はい ※	52
いいえ	353
無記入	210
合計	615



※ 仮設住宅やみなし仮設の生活の中で困ったことは何ですか

○阪神淡路大震災

- 事例 \* 仮設住宅は2戸一棟で隣の音が響いて大変だった  
 \* 冬期は沢山の雪、気温が低く、水道水が出なくなった。主人の事務所が大阪だったので通行出来る道を探しながら往復4時間かけていた

○東日本大震災

- 事例 \* コミュニケーション取れず、孤立した  
 \* 福祉サービスがなかなか受けられなかった。情報提供がない  
 \* 言えば切のない事だらけ。置かれた状況で満足して暮らした。孫が小さかったので、室の小さいのも乗り切れた。家族がお互いの生活を尊重して生活した

○熊本地震

- 事例 \* 情報が入ってこない  
 \* 困ったことはトイレと水、狭くても車中泊より良い。入居できて大変うれしかった。こんな状態の時にぜいたくは言えない。忍の一字

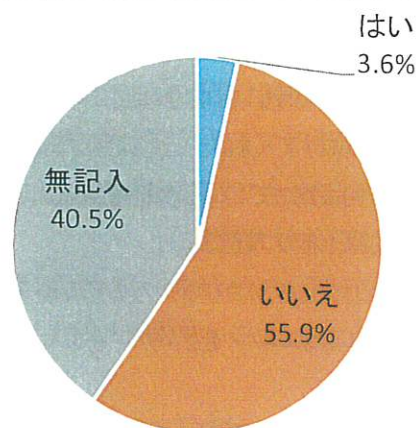
○その他の災害

- 事例 \* トイレ風呂を長い間使用したためつらかった(能登半島地震)  
 \* 大人3名でアパート2階に入居したが、部屋が狭い事や家財の量が限られており、松葉杖も使えるスペースがない。(九州北部豪雨)



◆問9 復興公営住宅に移りましたか。

はい ※	22
いいえ	344
無記入	249
合計	615



※ 復興公営住宅の生活の中で困ったことは何ですか

○阪神淡路大震災

- 事例 \* 知らない人ばかりなので、コミュニケーションがとりづらい  
\* 地域に不慣れ

○東日本大震災

- 事例 \* 福祉サービスがなかなか受けられなかった。人材不足  
\* 部屋が直せず物の整理が出来ない。集会所も隣組もなく、人に家を尋ねられてもわからず答えられない。人の会話もなく淋しい

○その他災害

- 事例 \* 住宅に入居したが、3階まで上がるのが大変。また、気温が31度の部屋で、次の住宅が決まるまでの1ヶ月は大変だった(不明)

◆問10 災害発生時や避難生活の大変な中で、良かった、あるいは安心したと感じられた支援がありますか。

○自治体、自衛隊、ボランティアの支援

- 事例 \* 神戸市が深夜に関わらず、弁当や飲料水などを持ってきてくれたり、近所の人たちが見えない人たちばかりがいることを知っているの、お握り等を持ってきてくれたこと(阪神淡路大震災)
- \* ボランティアの方が町内をまわり、困ったことを聞いていた。重い物などをゴミ捨て場に運んでくれた(阪神淡路大震災)
- \* 自衛隊が食事の世話やお風呂の世話等をしてくれたので安心した(東日本大震災)
- \* 自宅の外側や階段がくずれた時、ボランティアの方々がこわれた所を片づけ、捨てる場所に持って行ってくれたこと。本当に助かった(熊本地震)
- \* 中学校体育館に避難、住民の方とお話しが出来、私達60才代が頑張ってお手伝いをしなくてと思った。中学校体育館は間仕切りをしなかったの、皆さん見渡せて協力

しあえた事で良かった。(熊本地震)

\* 県聴覚センターと市福祉課と通訳のグループで安否確認に回られた(能登半島地震)

### ○自治会、地域住民の助け合い

- 事例 \* 地域の方が遠い所のお店に車で買い物に連れて行ってくれたり、代わりに水を運んでくれたり助けてくれた(阪神淡路大震災)
- \* 私達の自治会では安否確認として、一人暮らしの方を中心に夕食を1週間位届けてくれた(東日本大震災)
- \* 日頃の近所のかかわり方が大事であることが一番に思った。仮設団地は規模が小さい方がコミュニティを作りやすい。団地内での声掛け見廻りが自然に出来る(東日本大震災)
- \* 避難先ホテルに医師・看護師が居られ医務室があった。避難先ホテルの配慮でシャワー入浴が出来た(熊本地震)
- \* 組立用のダンボールベッドが使用できた事。避難にあたり、地域の方が世話をしてくれた(九州北部豪雨)

### ○福祉施設、身障団体の支援

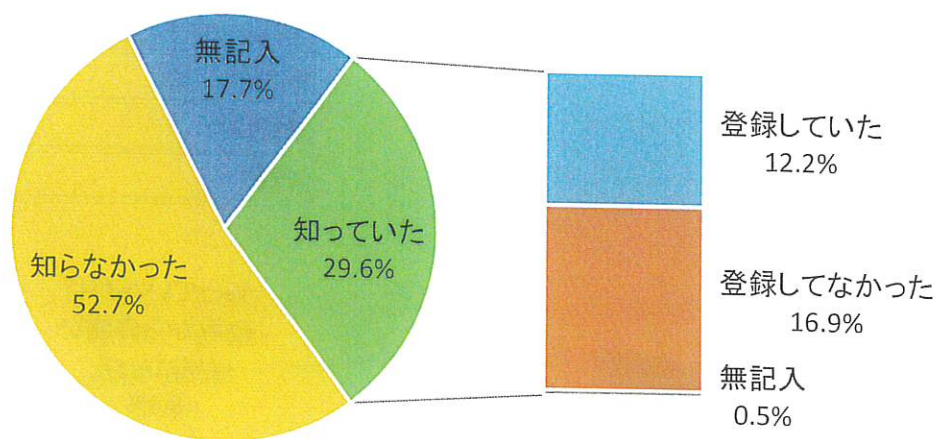
- 事例 \* 会から安否の連絡があり、困ったことがあったら相談にのりますと言われた(阪神淡路大震災)
- \* 福祉施設で夜中でも職員が介助、新聞を音読してくれた。食事はいつも温かい物が食べられた。皆でカラオケを歌ったりコミュニケーションが取れた(東日本大震災)
- \* 役員さんの配慮で元給食員を集めて食事を作ってくれた事。不足した日用品を配られた。役員さんの手厚い看護、世話等(熊本地震)
- \* 障害者施設に一時的に緊急避難出来て福祉施設職員の介助を受けられたこと(熊本地震)
- \* 自治会役員による調査及び市職員の現地調査が早かった。社会福祉協議会による災害センターが立ち上がり、支援体制をとってくれた(H25年台風26号)

◆問11 災害時において支援を必要とする方の名簿を行政が作成していますが、その制度を知っていましたか。(現在、『避難行動要支援者名簿』と呼ばれています)

知っていた	182
知らなかった	324
無記入	109
合計	615

「知っていた」と回答した方への質問です。  
その名簿に登録していましたか。

登録していた ※	75
登録しなかった ※※	104
無記入	3
合計	182



※ 登録したことでどのような支援が受けられましたか。

- 安否確認(7件)
- 配給等(6件)
- 避難誘導(1件)
- 受けなかった、ほとんどなかった(12件)

支援事例:

- \* 地域の民生委員さんが声を掛けてくれた(東日本大震災)
- \* 自治会で安否確認として一人暮らしを中心に夕食を1週間位届けてくれた(東日本大震災)
- \* 各行政又各団体ボランティアより支援や生活について通知があった(東日本大震災)

※※ 登録しなかったのはなぜですか。

主な理由

- 必要がない(自力で避難できる、同居家族がいる等)(38件)
- 制度のことが良く分からない(10件)
- 知る機会がなかった(9件)
- 当時は制度がなかった(7件)



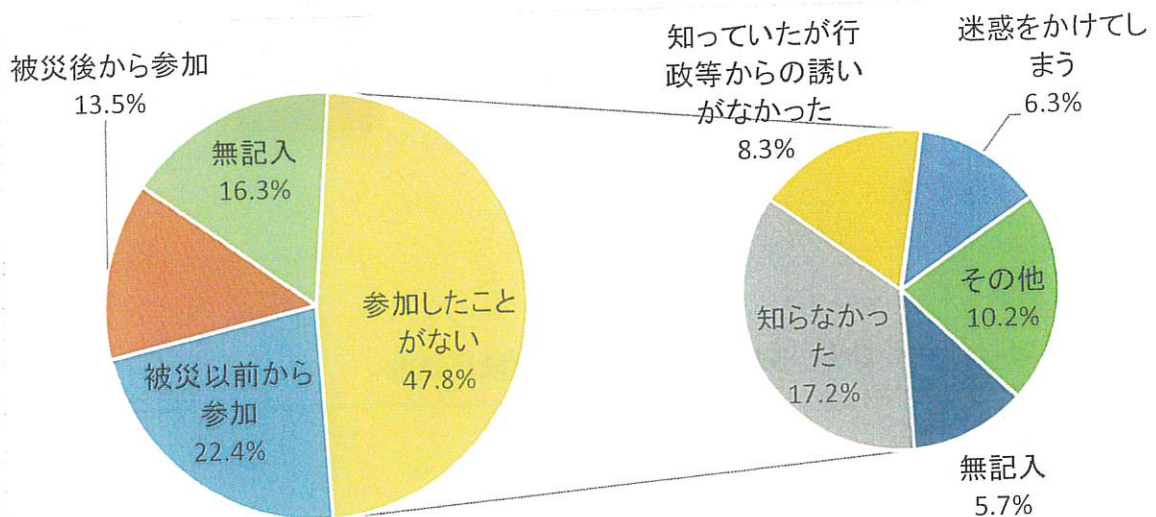
- 障害があることを知られたくない(5件)
- 要件が対象外のため(3件)

◆問12 地元の防災訓練に参加したことがありますか。

被災以前から参加 ①	138
被災後から参加 ①	83
参加したことがない	294
無記入	100
合計	615

「参加したことがない」と回答した方への質問です。参加しなかったのは、どのような理由からですか。

知らなかった	106
知っていたが行政等からの誘いがなかった	51
迷惑をかけてしまう	39
その他 ※	63
無記入	35
合計	294



※ 防災訓練に参加しなかった「その他」の主な理由

- 仕事や行事で日程が合わなかった(14件)
- 害者のため参加が難しい(9件)
- 訓練を行っていない(9件)
- 体力上の不安(4件)
- 面倒、必要性を感じない(2件)

① 防災訓練に参加して良かったことや困ったことは何ですか。

- 良かったこと
  - 地域とのつながり

- 自分の障害のことを知ってもらえた
- 避難所や避難経路の確認
- 救助方法や応急処置の仕方が分かった
- 防災体験や機器の使用方法を知ることができた
- 防災に対する意識向上

#### ○ 困ったこと

- 障害者への配慮不足、障害に対する理解不足
  - \* 下肢障害のため訓練についていけない
  - \* 視覚障害者への説明が不十分
  - \* 聴覚障害者に対する情報保障がない
- 実際参加できなかった(見学、集合のみ、参加しないでと言われた)
- 訓練場所が遠い
- 実際の時に対応できるのか不安(マニュアル的な訓練)
- 特定の人しか参加していないように感じる
- 避難所がバリアフリーになっていない

### ◆問13 災害を経験して一番伝えたいことは何ですか。

- 地域とのつながり、助け合い、コミュニケーションづくり
- 自分の身は自分で守る
- 日頃からの準備(避難経路、避難場所の確認、心構え、備蓄)
- 障害者の存在を知ってもらう
- 防災訓練への積極的参加
- 情報保障、正しい情報提供、情報提供の体制整備
- 避難行動要支援者名簿が役立つようにしてほしい

#### 主な回答;

- 普段の備え。防災訓練への積極的参加。障害者自身の存在を近所にアピールしておく
- 避難場所の障害者を受け入れてくれるシステムができているかどうか不安
- 聞こえない人も安心して避難、生活、情報保障ができるようにしてほしい
- 行動弱者に対して存在を忘れないでほしい
- 自然災害を未然に防ぐ事はできないので、災害が大きくなるようにする工夫、自分を守る備え、心構えができればと思うが、地域の人とのつながり、安易に市行政のとりくみに参加できる機会があればと思う
- 日頃から会社や何らかのグループに属していると、助けを得ることができる。趣味の集まりにでも定期的に参加し、輪を広げることも大切だと思う
- 近所のコミュニケーションがなかった。老人夫婦には何も知らせてくれなかった
- 手話が出来るのはもちろんだが、出来なくても空書き(地面に木の棒などで書くとか)や身ぶりで伝えてほしい。情報を提供してほしい
- トイレの事や車いすだと不便で、水もポリタンクを買って買いに行くのが大変で、車のガソリンが無くなって行列に並んで少ししか入れられないし、買い物も困るし、お風呂や洗濯が大変でした



- 障害者は誰も助けてくれません
- 備えがあっても、大災害時には判断することが難しくなると思うので、地域の方達とのコミュニケーションをとり、冷静さを失わず、対応出来るよう訓練等へ参加することも大切と思う
- 「避難行動要支援者名簿」が地域のリーダーに伝わり、災害発生時に役立って欲しい
- 災害時は皆不安でどうしたらいいのか心細い方がいっぱいです。高齢者には特に寄り添う事が一番でした
- 福祉避難所が欲しい(障害の特性に配慮した避難所)
- 障害者向けの仮設住宅を多くしてほしい
- 行政や支援団体が災害対策についての情報を丁寧に広げることは大切ですが、障害のある当事者自身が自ら情報に接しようとする意欲をもち、災害時の自分の行動や支援者への依頼の流れなどを確認しておく姿勢も必要だと思いました
- 確実な情報が欲しい。テレビ、ラジオは音声のため聞こえない者にとっては不安が大きい
- 常日頃より災害グッズ等の準備も大切であるが、隣近所等のコミュニケーションを良くしておく事、又自分が情報を発信・受信できる術を確保しておく事が大切
- 避難場所を増やしてほしい。避難通路を確保してほしい。どこでもトイレを設置してほしい
- 一般の避難場所へ避難した友人・知人は、食事をもらうのに列に並べなかったり、トイレでバケツを使っての使用後の対応ができずに困ったと聞いたので、今後の防災マニュアルなどでは、障害者が困らないような配慮をしてほしい
- 高齢者の一人暮らしに応援が必要。消毒や片付け等、水害にあった地域を廻りそれぞれの状況に応じた対応(聞き取り調査だけでなく)

#### ◆問14 災害に関してその他意見など

##### ○阪神淡路大震災

- 防災訓練には、聞こえない人も安心して参加できる環境整備を整えて欲しい
- 視覚障害者の避難所は、日頃よく利用する施設はや盲学校などにしてほしい
- 防災無線の音量に注意して欲しい。殆んど聞こえない(内容が)
- 喉頭摘出した現在声が出ないから、災害が発生すればとても不安。電気式人工喉頭で話しているが、非常時になれば相手とのやり取りがスムーズにいかないと不安
- 夜中に避難して下さいと云われても年寄りにはどうしていいかわからない
- 個人情報保護法にあまりとらわれない、幅広い理解
- “避難場所での自分の居場所、トイレ等生活する上に大切な事を介助なしではできないので、視覚障害者のヘルパーさんが必要。点字又は音声による度々の情報が欲しい

##### ○東日本大震災

- 障害者の防災訓練はなく、健常者の津波避難訓練を行っているが、対象者の地区を決めて行っている為、障害者はサポート体制がしっかりされていなければ生き残ることが出来ません
- 私達の自治会はみまもり隊がある。一人暮らしの高齢者、高齢夫婦、身障その他の方々をみまもる事。その方々と普段より連携しておく必要がある

- 聴覚障害なので一人で自宅にいる時は外からの情報がわからないので、民生委員さんとかに教えてほしい
- 災害の種類も千差万別で、その人によっても違うので、災害時どこで何をしていたかなどによって、それぞれ対応が違うので、ケースバイケースであり、「このようなときはこのようにする」と決めつけるわけにはいかないと思う
- 避難行動要支援者名簿の作成はもちろんのこと、個別にマンツーマンの避難計画の作成と共に、障害種別の避難所設置が必要
- 避難先の中学校には、洋式トイレが一か所しか無く、他のトイレ(和式)が空いていても健康者が洋式トイレを使う傾向があり、不便に感じた。ユニバーサルデザインの仮設トイレを設置してほしい
- 避難行動要支援者名簿に登録しても、実際に支援してくれるのか、誰がくるのか、二人に対して(二人とも全盲のため)支援があるのか、一年に一度くらい見直し確認してほしい
- 隣近所、町内会、民生委員などへ名簿を提出しておき、災害の時はすぐ駆けつけてくれる様にしていただきたい
- 日頃から町内会単位をもう少し小さい班単位の中で情報交換が出来る様にして、相互支援の体制作りが望まれる。ただ単に情報は回覧板だけで近所の付き合いがない事はさびしい。避難場所に市から派遣されて来る職員は、市が実施している「避難場所」での役割を十分に理解された職員でなければ役に立たない。望まれる事は「職員に対する教育」を必ず「実施する」切望
- 障害当事者も支援者も災害に遭ったときのことだけを考えるのではなく、いかに日常生活において近所の人や周囲の人とつながっているかを考えることが重要だと思います。災害時の生活は日常生活の支援の延長にあることを誰もが理解しておくことが大切なのではないでしょうか

#### ○熊本地震

- 災害が起きた時は、何としても身を守ることが大事だが、災害後もいろんな格差が出て、復旧、復興はとても大変
- 健康な人達だけの避難場所であってはならない。障害者や老人達が安心して駆け込めるそんな場所の提供をお願いしたい
- 被災者同士しっかり助け合うことが絶対必要です。神戸の災害被災者体験では、オストメイト使用者がにのいの苦情でいたたまれなくなって、寒空に外で過ごし凍え死亡したとの発表を聞いた時、災害時に非常に残念で、あってはならないと思います
- 今回(地震)の災害で痛感した事は、身障者及び老人等への支援が出来ていない。自宅に被害がなく自宅で生活する事が出来たが、家がこわれていたら生活に困っていたかもしれない。今回(地震)の災害で、災害特に要支援を求めている障害者等に支援が行き届いていない事が分かった。わずかな支援でも安心して平等に受けられるようにしてほしい
- ライフラインがストップしている中、情報が入ってこない人は支援物資等がほとんど頂けない。公共の避難所では食べ物等配られる。その差は意外と大きいと思う

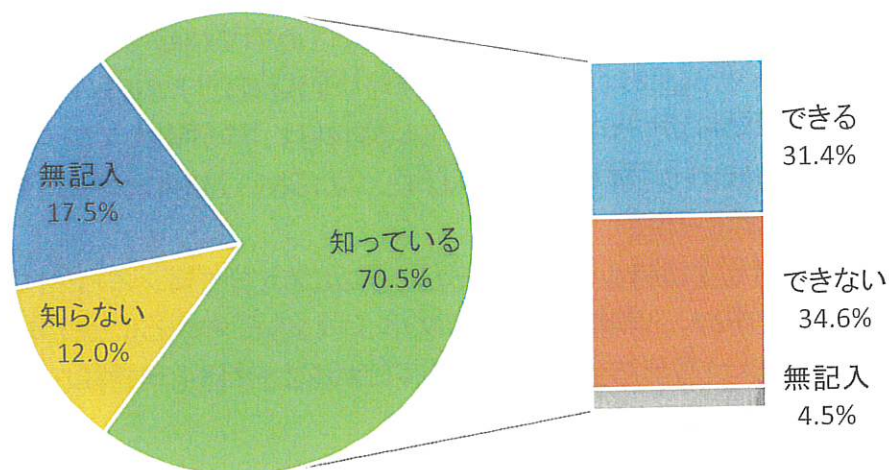
「災害経験なし」の回答（問15～問19）

◆問15 ご自身の避難すべき場所（指定避難所）を知っていますか。

知っている	442
知らない	75
無記入	110
合計	627

「知っている」と回答した方への質問です。その  
場所で数日間、避難できると思いますか。

できる ※	197
できない ※※	217
無記入	28
合計	442



※ 指定避難所で数日間、避難できる理由

主な理由

- 学校や市の建物なので安心
- 自宅から近いので自力で行ける
- 備蓄品があるので安心
- 数日間ならがまんできる

※※ 指定避難所で数日間、避難できないと思う理由

- バリアフリーではない
  - トイレ、段差、階段、ベッド等)
  - 障害に対する理解や配慮の欠如
  - 居場所の確保
  - 自由に動けない、支援がないと不可能(車いす利用の方)
  - コミュニケーション保障がされていない(視覚、聴覚障害の方)

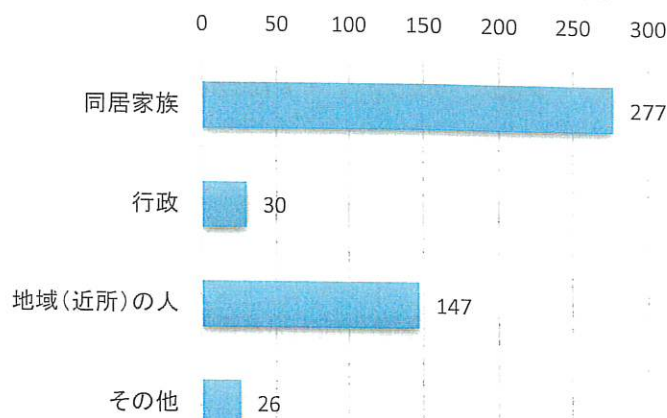
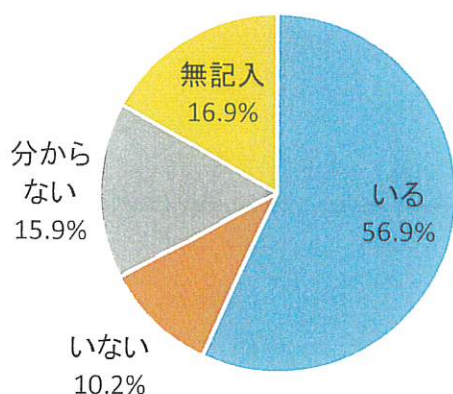
- 静かにできない、並ぶことが難しい
- 家族以外の人とは長時間一緒にいることができない
- 盲導犬と一緒に大丈夫か不安
- 狭いため入れるか不安
- 自宅から遠いため行くことができない

◆問16 災害発生時、どなたか助けてくれる人はいますか。

いる	357
いない	64
分からない	100
無記入	106
合計	627

「いる」と回答された方が、助けてくれる人はどなたですか。(複数回答)

同居家族	277
行政	30
地域(近所)の人	147
その他	26
合計	480



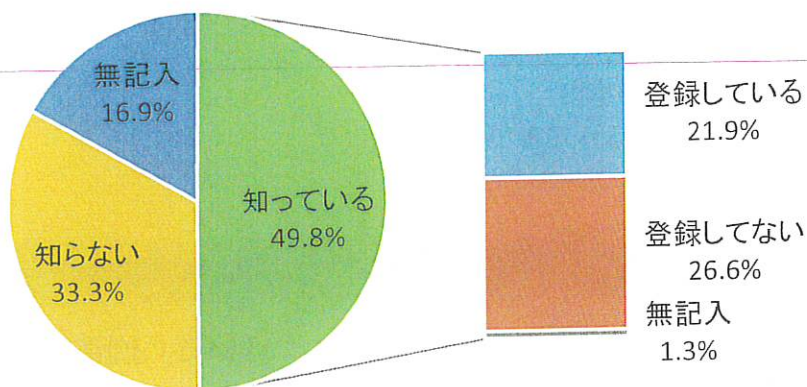
◆問17 災害時において支援を必要とする方の名簿を行政が作成していますが、その制度を知っていますか。(現在『避難行動要支援者名簿』と呼ばれています)

知っている	312
知らない	209
無記入	106
合計	627

「知っている」とご回答した方は、その名簿に登録していますか。

登録している ※	137
登録していない ※※	167
無記入	8
合計	312





※ 登録することで、どのような支援を期待されますか。

主な理由

- 安否確認、見守り
- 避難誘導の支援
- 支援物資や情報提供等の支援
- 個別対応の支援
- 手話の分かる人や手話通訳者の派遣

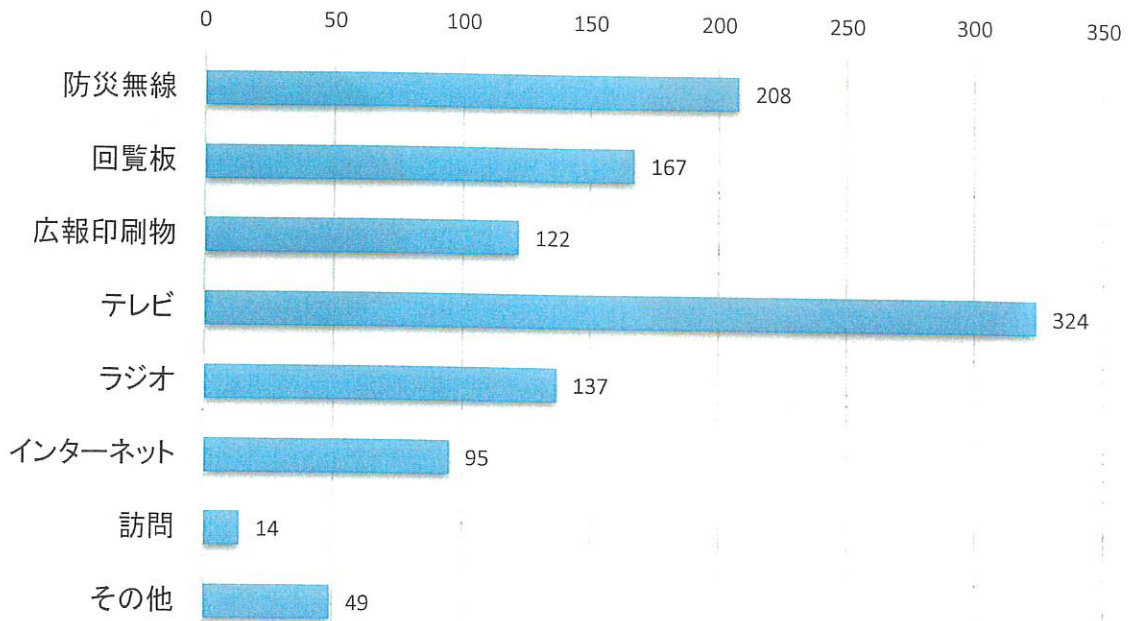
※※ 登録しない理由は何ですか。

主な理由

- 登録する必要がない(84件)
  - 自力でできる
  - 同居家族等がいる
- 制度の内容や申請方法がよく分からない(21件)
- 迷惑をかけたくない(14件)
- 要件が対象外になっている(7件)

◆問18 防災に関する情報は、どこから得ていますか。(複数回答)

防災無線	208
回覧板	167
広報印刷物	122
テレビ	324
ラジオ	137
インターネット	95
訪問	14
その他	49
合計	1116

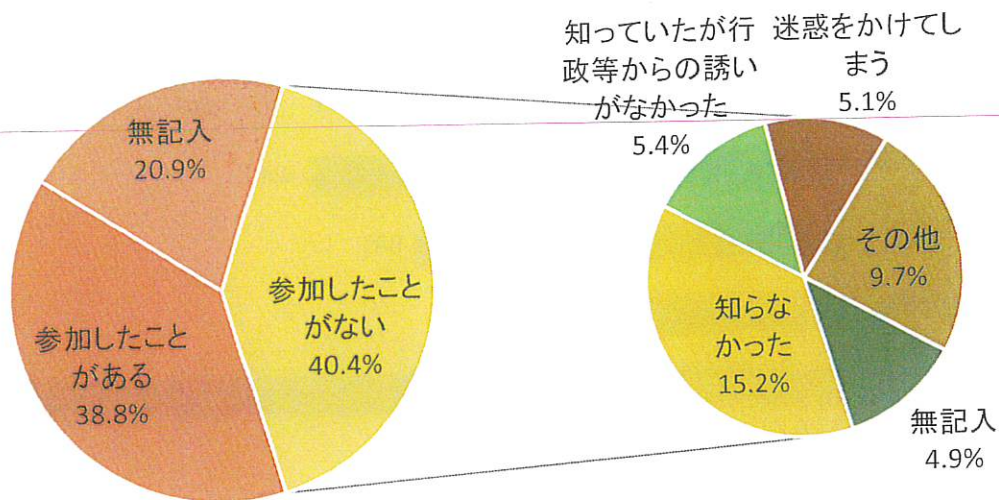


◆問19 地元の防災訓練に参加したことがありますか。また、参加したことがない方は、  
 どのような理由から参加しませんでしたか。

参加したことがある ①	243
参加したことがない	253
無記入	131
合計	627

「参加したことがない」と回答した方への  
 質問です。参加しない理由はなんですか。

知らなかった	95
知っていたが行政等から の誘いがなかった	34
迷惑をかけてしまう	32
その他 ※	61
無記入	31
合計	253



### ① 参加して良かったことや困ったことは何ですか。

#### ○良かったこと

- 地域とのつながり
- 自分の障害のことを知ってもらえた
- 避難所や避難経路の確認
- 救助方法や応急処置の仕方が分かった
- 防災体験や機器の使用法を知ることができた

#### ○困ったこと

- 障害者への配慮不足、障害に対する理解不足
  - \* 訓練の仕方が障害種別を理解せずに行われているように感じる
  - \* 聴覚障害者に対する情報保障がない
- 障害者に対する訓練が少ない(健常者のペースの訓練になっている)
- 障害者の参加がほとんどないことが心配
- 一緒に訓練でも地域の方とのコミュニケーションが少ない
- 訓練場所が遠い
- 避難所がバリアフリーになっていない(オストメイトは無理?)

### ※ 参加しない「その他」主な理由

- 仕事や行事で日程が合わなかった(22件)
- 障害特性を理解した配慮があるか不安、気がひける(15件)
- 訓練を行っていない(10件)
- 面倒、必要性を感じない(8件)

### ◆問20 災害に関してその他意見など

- 障害者でも重度の場合は助かるとは思わないので、不安の中で苦悩の中であきらめるしかないかいつも思っている。それを解決する方法として、日常的に本当の親しい人をつくるネットワークが大切だと思うが、そのようなネットワーク作りを公的に助けがあると良いと思う。ネット

ワークのしくみ作り。

- 障害者という事で隔離されるのではないかという不安
- 災害の種類に合った対応、障害者の種類に合った対応、適切な対応を考慮した対策が必要
- 災害の規模によって無事避難場所に行けるか不安である。音声による誘導は全くキャッチできない。中途失聴者に対してどのように救助を進め救助されるのか。高齢化社会は益々進み難聴者は増えて行く、高齢中途失聴者のコミュニケーション合理的配慮を切に望んでいる
- 車イス使用者が気がねなく避難できる場所があればとは思いますが、実際にはそこまでたどりつけるかどうかという不安もあり日頃から地域で理解を広めておくことが大事かと思う
- 中途失聴、難聴者に対するサポートがない。手話は使えない人が多く要約筆記の対応がない
- 視覚障がい者でも避難所で安心して生活できるよう、トイレ等必要な場所への導線の確保、必要な情報の音声による伝達の徹底が強く望まれる。また、避難所における障がい者に対する適切な対応がなされるよう、日頃の行政職員に対する障がい特性の理解のための研修の充実が強く望まれる
- 防災無線による放送について、私の住んでいる地域では風向きによっては聞き取れるが、殆どどの放送が何を話しているのかわからない。聞き取りやすいように改善をお願いしたい。防災訓練について、単に避難訓練を実施するので避難所に集合してくださいと知らせはあるが、大災害発生時の最悪の状況を想定し、自宅から避難所まで行く訓練が行われているとは思わない。
- 内部障害者にとり、非常時にどれだけもって出られるか不安。避難所にストックがある様に見える事が希望。そして、皆さんより長時間トイレを使う事を思うと不安
- 障害者用の避難所が1ヶ所でもいいから地域にあると心強く安心
- 災害時音声情報だけではなく情報が得られる方法を考えてもらいたい
- 県身障協会で毎年県内持ち回りで障がい者対象の防災訓練を実施している。地域においても、障がい者を訓練に加えていただき、健常者、障がい者ともに、もしもの時にはどう対応すべきか相互理解できる訓練方法を考えていただきたい
- 健常な人より呼吸機能が劣っている(COPD:慢性閉塞性肺疾患)ので、避難場所までの経路に急な坂道あるいは長い階段等が無いような配慮をして頂きたい
- 視覚障害者になると、避難場所にも一人では行かれないし、配給も受け取りに行かれない。いざ、災害が起こると安全な場所へ避難できないので不安
- 居住については問題がなかったので助かりました。ただ、もし避難生活となったら、想像もつきません。特に声帯を摘出していますので、声を出せませんから、情報や救助方法に検討がつきません。